

2005年6月19日 関東インターハイ(三日目) 於 千葉総合天台

あと40日後には、ここで本戦が行われる。

今回はその前哨戦となり、インターハイでの感触をつかむ良い経験になった。



やはり関東は厳しい。

特に200mは予選、決勝の2ステージしかないため、  
予選でベストを出さないとファイナル進出は苦しくなる。

おまけにこの競技場は浜風が回っていて、昨日は絶好の追い風であったが、今日は向かい風だ。

伊藤は22秒42(-1m)で惜しくも決勝を逃す。



石川は22秒64 (-0.7m)  
やや固くなったか。

ただ伊藤も石川も、このあと始まるマイルで好走を見せる。

総合がかかったマイルのためには。逆に良い刺激になったのではないだろうか。







後藤は21秒98（-0.9m）で通過。

前日の100mで10秒52の自己新をマーク。大本命の石塚選手（土浦三）とレースをして、本戦の同じ場所でのイメージをつかんだだろう。

ただ100m三本、400mR三本、そして200mと、疲労はかなり蓄積している様子。しかし、なんとしても総合順位もあるので200mでも点数獲得したい。

いよいよ男子200m決勝！



栃木勢 5 人、埼玉は二人、石塚選手（茨城）で大混戦。



圧勝したのは石塚選手。

今シーズンは日本ジュニアで木村選手（添上）以外に負けていない。

西の金丸（大阪）と東の石塚（土浦三）との激突は必至だ。本戦では好記録の予感。

後藤は 5 位入賞。かなり疲れた様子。

しかし、このポイントが総合を有利に進める貴重な得点となる。

翌日のマイルできっちりと 3 位、3 分 1 9 秒 1 9 のチーム新記録。奥岡はハードル二冠をなしとげ、0・5 ポイントの僅差で春高は関東総合 3 位となった。

県内最多得点高校となり、インターハイ埼玉県陸上男子の監督を務める快挙であった。

さあ、あとは真夏にここで大勝負だ。

筆 撮 のもと歯科